

地域資源で“温もり”届け

健康サポートへ、米ぬか製カイロ開発

新潟・南魚沼市 a c c o s

【新潟】南魚沼市で「米ぬか玄米カイロ」を製造・販売する株式会社 a c c o s



創業は2020年3月。代表取締役の永井亜木子さんが、恒久的に調達可能な地域資源として米ぬかに着目し、農業副産物を活用した製品開発に取り組んだ。電子レンジで1分加熱す



③目元用と大判の米ぬか玄米カイロ、②米ぬかの焙煎から縫製まで、一つ一つ丁寧に手づくりしている

るだけで使え、約2年間繰り返し使用できる。穀物のやさしい温熱が体を芯から温め、冷えや不調の緩和に役立つという。永井さんは「冷えに悩む人や毎日がんばる人の健康サポートに使ってもらえたら」と話す。利用

【長野】池田町あづみ野池田クラフトパークで11月1日、「あづみ野いけだまちワインまつり」が開かれ、750人の来場者が池田町産ブドウを使ったワインの飲み比べを楽しんだ。

「あづみ野いけだまちワインまつり」多彩なワイン飲み比べが盛況

長野・池田町



参加者はプラスチック製のワイングラスとチケットを手にとり、町産新米やポトルワインが当選者に手渡された。(北アルプス地区農業委員会協議会)

また、歌手の汐入規予さんやAzumino Jazz Projectが出演したライブのほか、豪華抽選会も行われ、町産新米やポトルワインが当選者に手渡された。

親子サツマイモ掘りに歓声 石川・金沢市農業委員会 地域交流イベントを初めて主催



収穫するサツマイモについて説明する稲本さん

【石川】金沢市農業委員会は10月25日、金沢市内の農業女性グループ「金沢農女(通称)ノマジヨ・カナザワ」や地域の農業者の協力のもと、サツマイモの収穫体験会を開

が主催する地域交流イベントは今回が初めて。参加者は、ノマジヨ・カナザワの皆さんや同市元農業委員の稲本勝彦さんらに収穫方法を教わりながら、用意された箱がいっぱいになるまで収穫を楽しんだ。

【岐阜】県は来春から、農業を気軽に楽しく学べる体験の場をつくり、多様な形での農業参画につなげる「アグリパーク構想」に取り組む。一環として10月25日、「楽しく儲かる」農業フォーラムを開催した。

「楽しく儲かる」へ農業フォーラム 岐阜県で来春からアグリパーク構想

江崎知事はアグリパーク構想を説明し、県は来春の政策オリンピックの中で県民の意見やアイデアを募集し、地域の特色に合わせた農業参入の取り組みモデルの構築や横展開を進め、担い手育成を図っていくとした。

市内12地区で「農地相談会」 規模拡大めざす農家と農業の将来協議

京都・綾部市農委会

【京都】綾部市農業委員会は、11月に市内12地区で「農地相談会」を開催する。経営規模拡大の意向がある農業者に参加を呼びかけ、高齢や転出により離農が見込まれる農地の貸借など、地域農業の課題について委員が担い手農家と話し合う。



【京都】綾部市農業委員会は、11月に市内12地区で「農地相談会」を開催する。経営規模拡大の意向がある農業者に参加を呼びかけ、高齢や転出により離農が見込まれる農地の貸借など、地域農業の課題について委員が担い手農家と話し合う。今回の農地相談会は、地域計画のブラッシュアップに係る「協議の場」に位置づけて実施する。相談がない時間帯は、農業委員と農地利用最適化推進委員が地域の課題や将来像を協議する。



農業委員と推進委員の合同会議で「農地相談会」の実施方針を確認(10月1日)

関係人口の創出めざす 名古屋で農村RMO推進フォーラム

東海農政局

【愛知】東海農政局は11月3日、農村型地域運営組織(農村RMO)の形成が急務となっていることから、名古屋市で「農村RMO推進フォーラム」を開いた。

(同)PILLIの志村さくら代表がコーディネーターを務め、「なぜ今、農村RMOなのか? 関



トークショーで左から志村さん、伊藤さん、鈴木さん、成瀬さん、山本さん

歴史ある棚田の再生へ 協議会設立し保全活動



棚田の保全活動に取り組むメンバーたち

和歌山・紀美野町

【和歌山】紀美野町の小川地域棚田振興協議会(北裕子会長)がこのほど、農水省が実施する全国表彰事業で大臣賞を受賞した。同協議会の前身となる「指定棚田地域」に認定

中日本版

各地の話題

【兵庫】県農業会議(荒木一聡会長)は、8月から12月にかけて、県農業委員会会長協議会(吉田一男会長)と共催

農委・推進委がグループワーク 兵庫県農業会議が研修交流会



し、県内7地区で農業委員・農地利用最適化推進委員の研修交流会を開催している。地区代表の農委会会長の意見を踏まえて会場ごとに研修テーマを設定。市町の枠を越えてグループに分かれ、意見・情報交換を行う。

最後は農業委員会ごと

グラスを手にはワインのブースを訪ねる来場者